

〈資料〉

## 2016年度鳥取大学教員免許状更新講習実施状況

田中浩・安藤晶子・柿内真紀

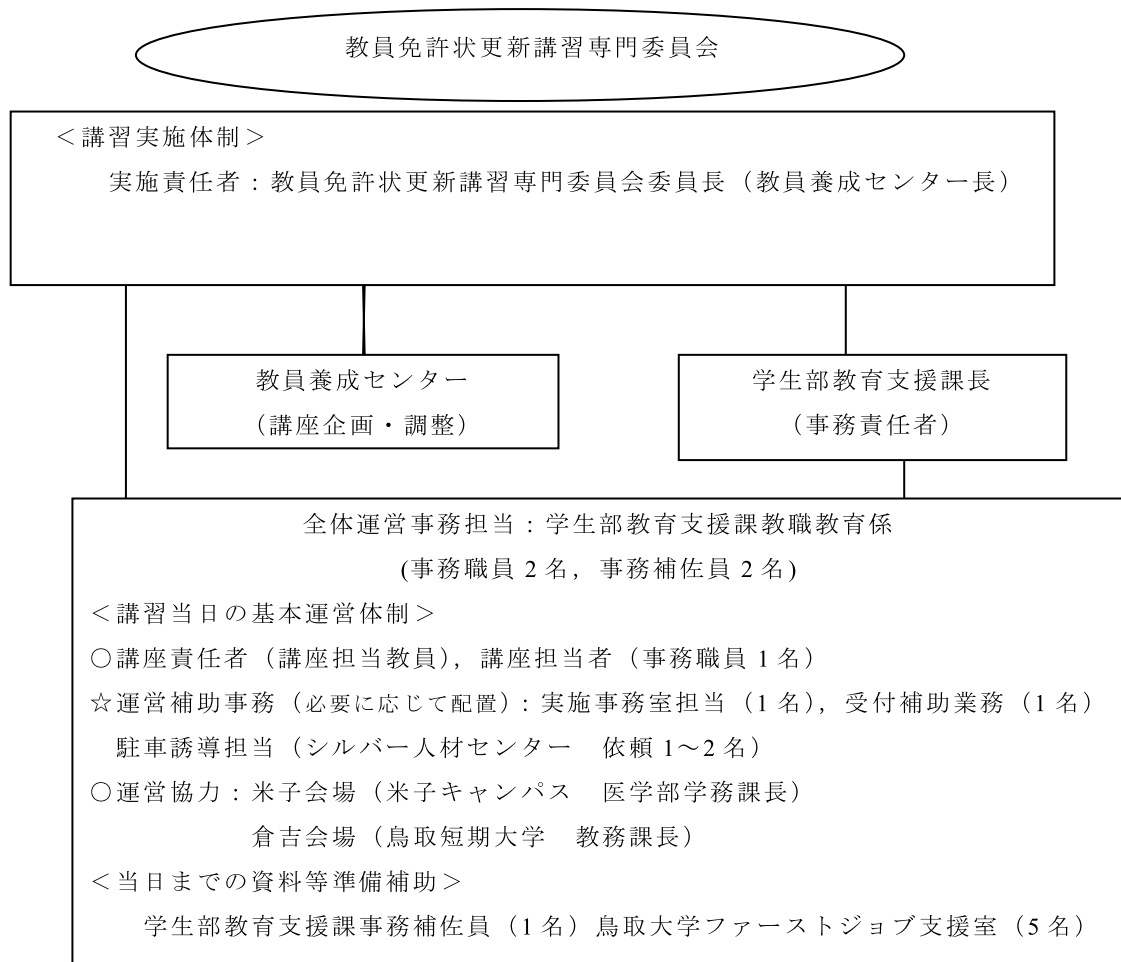
### はじめに

2013年2月の大学教育支援機構の組織改組により、教育センター・教職教育部門及び附属学校連携部門を母体に、教員養成部門と附属学校連携部門の2部門を擁する教員養成センターが設置された。教員養成部門では、旧教育センター・教職教育部門から引き続き、教員免許状更新講習の講座企画およびコーディネートを担当している。担当は、組織改組前（2009年度までは生涯教育総合センター・教職教育部門）の2008年度から9年目となった。

本稿では、2016年度の更新講習の運営体制と受講状況等を取りまとめておく。

### 1. 運営・実施体制

本学では講習開設にあたり、予備講習実施（2008年度）から全学レベルの教員免許更新講習専門委員会を設置し、運営事務は学生部教育支援課教職教育係が担当している。実施体制としては、本学の教員養成に関する機能強化を目的として設置された教員養成センターにおいて、センター長を中心として講座の企画・調整を行っている。



## 2. 受講状況

今年度は、鳥取市（鳥取キャンパス、とりぎん文化会館）、米子市（米子キャンパス）、倉吉市（鳥取短期大学）、船上山少年自然の家の県内 4 会場で、必修 4 講習、選択必修 13 講習、選択 58 講習を開設した。全体の受講状況は表 1 のとおりであった。本学の特色として、地方国立大学であるが、昨年度と同じく、隣接の兵庫県北部や島根県、岡山県など県外からの受講者が 409 人と、受講者数全体の 14.3%を占めている点があげられる。

なお、必修・選択講習別の受講状況は表 2 及び表 3 のとおりである。

表 1 更新講習受講者全体状況（単位：人）

必修・選択必修・選択 合計（延人数）	受講定員	受講者数	左の内訳	
			県内	県外
	3,777	2,858	2,449	409

表 2 受講状況（必修講習）（単位：人）

会場	講習の名称	講習責任者	定員	受講者数	左の内訳	
					県内	県外
米子市	教育の最新事情①	大谷直史	130	127	125	2
鳥取市	教育の最新事情②	大谷直史	180	179	140	39
鳥取市	教育の最新事情③	大谷直史	180	168	141	27
倉吉市	教育の最新事情④	大谷直史	180	123	107	16
		合計	670	597	513	84

表 3 受講状況（選択必修講習）（単位：人）

会場	講習の名称	講習責任者	定員	受講者数	左の内訳	
					県内	県外
鳥取市	異文化コミュニケーション （鳥取）	筏津成一	30	25	16	9
鳥取市	教育相談①	小林勝年	80	80	68	12
米子市	民衆の道徳・国家／国民の道徳 （米子）	一盛 真	40	21	17	4
米子市	学校を巡る近年の状況の変化 と様々な問題に対する組織的 対応の必要性（米子）	大谷直史	120	96	85	11

米子市	教育相談②	井上菜穂	60	57	57	0
倉吉市	異文化コミュニケーション (倉吉)	筏津成一	40	32	31	1
米子市	国際理解及び異文化理解教育	兒島 明	40	16	12	4
米子市	児童生徒の心身の発達と諸問題, その支援・カウンセリング	菊池義人	50	50	46	4
鳥取市	英語ライティング指導の理論 と実践	滝波稚子	30	8	6	2
鳥取市	民衆の道徳・国家／国民の道徳 (鳥取)	一盛 真	40	38	30	8
鳥取市	学校を巡る近年の状況の変化 と様々な問題に対する組織的 対応の必要性 (鳥取)	大谷直史	120	118	96	22
鳥取市	国際理解教育の実践と, 外国 にルーツを持つ子どもへの支援	御館久里恵	30	29	24	5
米子市	新しい英語教育の理論と実践	足立和美	30	11	6	5
		合計	710	581	494	87

表4 受講状況 (選択講習) (単位:人)

会場	講習の名称	講習責任者	定員	受講者数	左の内訳	
					県内	県外
鳥取市	【授業実践演習 (中学校)】英語	足立和美	15	3	3	0
	【授業実践演習 (中学校)】音楽	鈴木慎一郎	15	3	3	0
	【授業実践演習 (中学校)】国語	小笠原 拓	15	3	3	0
	【授業実践演習 (中学校)】社会	高橋健司	15	1	1	0
	【授業実践演習 (中学校)】理科	高橋ちぐさ	15	10	7	3
	【授業実践演習 (中学校)】数学	矢部敏昭	15	7	5	2
	【授業実践演習 (中学校)】 保健体育	関 耕二	15	7	7	0
	【授業実践演習 (中学校)】 健康教育	近藤 卓	15	3	2	1

鳥取市	日本経済の現状と今後の課題	藤田安一	50	33	29	4
米子市	地域と学校における健康と体力 -楽しく走る・歩く-（米子）	関 耕二	40	40	40	0
鳥取市	森林と人間（鳥取）	佐野淳之	30	30	27	3
鳥取市	生物多様性を中心に郷土の自然 を考える-博物館を活用して-	永松 大	20	13	12	1
米子市	医学・生命科学・脳科学から学校教育 の可能性を探る	岡田 太	40	39	38	1
鳥取市	生命倫理と法-死と医療と法-	丸 祐一	40	37	33	4
鳥取市	新しいものづくり・技術教育の理論 と実践	土井康作	20	20	20	0
米子市	算数・新しい算数の授業づくり （協同的問題解決の学習）	矢部敏昭	30	18	18	0
鳥取市	社会学入門-＜弱さ＞の＜強さ＞-	仲野 誠	50	40	33	7
米子市	沖縄の現実から日本と「日本人」 を考える-「伝統と文化」,「我が国と郷土」 について-	一盛 真	40	39	36	3
米子市	「日本人」になること・であること・ であったこと-「伝統と文化」・「我が国と郷土」 について考える-	一盛 真	40	34	31	3
鳥取市	憲法学入門-未来の主権者-	佐藤 匡	40	10	8	2
鳥取市	法学入門-家族の法律-	佐藤 匡	40	16	13	3
鳥取市	オペラでたどる西洋音楽の歴史	新倉 健	40	39	30	9
鳥取市	ご地層を見る	菅森義晃	8	8	8	0
倉吉市	食育と栄養	野津あきこ	40	39	38	1
鳥取市	子どもたちが気持ちと仲良しに なる方法-主に発達障害児を対象に-	石本雄真	30	30	24	6
鳥取市	文学教育の可能性	岡村知子	40	17	14	3

鳥取市	基礎から分かる昆虫学	中 秀司	100	98	83	15
鳥取市	新しい国語科の教材づくり(小学校編)	小笠原 拓	40	37	34	3
鳥取市	子どもたちの多面的な理解と多様性に対応する指導・支援のあり方	石本雄真	40	40	33	7
米子市	新しい国語科の授業づくり(中学・高校編)	小笠原 拓	40	10	8	2
鳥取市	新しい音楽教育の理論と実践	鈴木慎一郎	20	20	16	4
鳥取市	新しい家庭科教育の理論と実践	福田恵子	25	18	12	6
鳥取市	地域経済の現状と今後の展望	多田憲一郎	50	18	12	6
鳥取市	世界の諸都市の特徴と課題	山下博樹	40	28	20	8
鳥取市	地域と学校における健康と体力-楽しく走る・歩く-(鳥取)	関 耕二	40	39	34	5
鳥取市	子どもたちの指導・支援に活かす認知行動療法-論理的方法による生徒指導-	石本雄真	40	40	36	4
鳥取市	楽しい造形表現の実践~教材づくりと活動内容の設定~	武田信吾	30	30	24	6
船上山 少年 自然の家	自然体験の理論と実践	大谷直史	20	20	20	0
鳥取市	昆虫学総論:昆虫生理・生態学の最新研究を紐解く	中 秀司	45	20	15	5
鳥取市	基礎物理学実験	安藤由和	20	15	12	3
鳥取市	地域福祉の推進と学校の役割-超高齢社会における福祉との向き合い方-	竹川俊夫	50	49	38	11
鳥取市	地域を救う理科教育とは	岸田 悟	30	14	7	7
鳥取市	私たちの身の周りの放射線	山野好章	30	30	16	14
鳥取市	書写の学習内容と授業づくり	住川英明	30	30	26	4

鳥取市	ジェンダーと法	丸 祐一	40	39	38	1
米子市	教員が知っておきたい生徒の健康：とっさの時の対応と心肺蘇生法の新しい教育法の紹介	本間正人	50	50	48	2
鳥取市	子どもと創るダンス・動き遊び	佐分利育代	30	30	26	4
鳥取市	からだきづき・からだほぐし	佐分利育代	40	40	37	3
倉吉市	絵本、読み聞かせの実践とその活用	齊木恭子	40	40	40	0
倉吉市	特別支援教育と生涯発達支援～乳幼児期と青年期に注目して～	國本真吾	40	40	39	1
鳥取市	「宇宙教育」への招待	三浦政司	20	14	10	4
鳥取市	ピア・ラーニング（協働学習）による授業デザインー学び合い学習の理論と授業デザインの実際ー	池田玲子	30	29	24	5
鳥取市	鳥取砂丘の教育活用をめざしてー地理・地学編ー	小玉芳敬	24	24	19	5
鳥取市	アメリカ文化と社会	中 朋美	40	24	19	5
倉吉市	森林と人間（倉吉）	佐野淳之	30	29	29	0
鳥取市	現代日本の財政危機と財政改革の展望	藤田安一	50	7	3	4
鳥取市	【幼児教育実践演習】	塩野谷 齊	20	14	13	1
鳥取市	植物とカビ・キノコを通して生物の不思議を学ぶ	児玉基一朗	35	34	31	3
米子市	森林と人間（米子）	佐野淳之	30	30	28	2
鳥取市	【授業実践演習（小学校）】音楽	鈴木慎一朗	15	3	3	0
	【授業実践演習（小学校）】 外国語	足立和美	15	1	1	0
	【授業実践演習（小学校）】国語	小笠原 拓	15	2	2	0
	【授業実践演習（小学校）】算数	矢部敏昭	15	5	3	2
	【授業実践演習（小学校）】 図画工作	武田信吾	15	3	3	0

	【授業実践演習（小学校）】生活	高橋千枝	15	1	0	1
	【授業実践演習（小学校）】 保健体育	関 耕二	30	6	4	2
鳥取市	算数の問題解決学習と教材研究	溝口達也	40	8	5	3
倉吉市	造形教育のための素材実習「版画」	宮崎百合	40	39	38	1
米子市	数学の問題解決学習と教材研究	溝口達也	40	29	17	12
鳥取市	【特別支援教育実践演習】 知的障害のある子どもの理解と支援	三木裕和	20	19	16	3
鳥取市	脳科学・心理学・精神医学等の最新知見を学校現場に生かす	小林勝年	100	25	17	8
		合計	2,397	1,680	1,442	238

### 3. 今後の講習運営に向けて

今年度の講習運営を振り返り、講習運営に関して効果のあった点、困難だった点、及び今後の検討課題を簡単にとりまとめておく。

#### (1) 運営上の効果があった点

- ・必修講習は、例年と同じく東部地区（鳥取市）・西部地区（米子市）・中部地区（倉吉市、鳥取短期大学）で開設し、地理的バランスがとれた。
- ・また、受講見込み者数の関係から、東部地区では例年どおり2講習開催し、需要に応えることができた。
- ・選択必修講習は、平成28年度の制度改正により選択必修領域が新設されたことに伴い開設された講習で、13講習開設した。講習の定員に対して80%を超える受講者数で、需要に応えることができた。
- ・選択講習は、58講習開設した。受講者数の少ない講習もあったが、おおむね受講生からの評判も良く、需要に応えることができた。
- ・必修講習については、引き続き、ざぶとん、ひざかけ（選択講習については、受講生に持参することを促した）を準備する等、教室の座席等の環境改善に一定の効果があった。
- ・聴覚障害の方の受講に際して、文部科学省の教員講習開設事業費補助金を申請し、その補助金により要約筆記、手話通訳をつけることができたため、講習に対する不満等も特になく、修了認定試験実施まで至ることができた。

#### (2) 運営上、困難だった点

- ・台風の接近や地震の発生で、講習を開催すべきかどうか判断が難しい点があった。
- ・教室外で行う講習の期日設定（季節や天候との兼ね合い）が難しかった。

- ・暑い時期，寒い時期の講習で空調の準備等がうまくいかない講習があった。
- ・オープンキャンパス，大学祭等のイベントと開催時期が重なったため，運営が難しいことがあった。
- ・平成 28 年 4 月より，本学の大学構内への自動車入構規制が実施されたこと，および教職員の駐車規則の変更に伴い，受講者への事前連絡をおこなうと共に附属小学校校庭等を含め駐車スペース確保等に努めたが，受講者の駐車スペースの確保と本学教職員の駐車スペースの割り当てがうまくいかないことが，受講者数の多い講習の場合にあった。

### （3）今後検討が必要な点

- ・講習中の緊急時対応（特に災害や休日に急病人が出た場合）の速やかな対応が必要である。
- ・受講者の駐車スペースの確保について，必修講習や受講者の多い選択必修講習，選択講習は土日祝日開催とし，鳥取キャンパスでの講習（平日開催分）については，受講者に対して，できるだけ公共交通機関を利用して来学願うことを周知するとともに，受講者専用の駐車スペースを確保する等，対策を講じたい。
- ・米子キャンパス（医学部）での講習の際は，駐車スペース確保の検討や，講習を行う棟の周知を徹底する必要がある。

田中浩（学生部教育支援課教職教育係 係長）

安藤晶子（学生部教育支援課教職教育係 事務補佐員）

柿内真紀（鳥取大学大学教育支援機構・教員養成センター）